

---

## 事業所のメンタルヘルスに関わる リスク評価と対策に関する研究

発達臨床学科 尾久 裕紀

社会構造の変化に伴い、労働者の受けるストレスは増大した。それに伴い労働者の精神障害や自殺などメンタルヘルス上の問題が急増し、その対策が使用者にとって重要課題のひとつになっている。労働者のメンタルヘルス上の問題に適切に対処することは様々なリスクを回避するリスクマネジメントとして大きな意味をもつ。

本研究の目的は、事業所のメンタルヘルスに関わるリスク評価とこれへの対策のための方法論を整理・開発し、リスクマネジメントとしてのメンタルヘルスシステムを検討することにある。平成21年度、取り組んだ内容は以下の通りである。

産業現場における企業経営リスクの観点からメンタルヘルスの問題を論じた。この分野における先行研究（未だ専門的な研究は少ない）を概観し、産業現場におけるメンタルヘルスの現状を述べ、自殺の増加やうつ病の蔓延の現状を指摘した。その上で、メンタルヘルス不全による経営リスク（労災・損害賠償、生産性の低下などによるコス

ト負担）に言及した。次に、メンタルヘルス不全の要因を著者自身の観点から分析し、その解決策を論じた。最後に、著者なりのリスク対応策を述べた。

以上の研究結果を平成21年9月、日本リスクマネジメント学会において発表し、さらに学会誌「危険と管理」第41号（平成22年3月）に掲載した。

今後は、事業所がメンタルヘルス上のリスクについて把握しているか、把握している場合、どのような要因を考えているか、その対策はどのようなおこなっているか等の調査を行う方向で進めている。さらに専門家（産業医、精神科医、弁護士、企業のより専門的なリスクマネジメント担当者等）によるディスカッション形式による聞き取り調査を行い、『リスクマネジメントとしてのメンタルヘルスシステム』を開発、研修教材を作成し、事業者向けの研修実施とその効果評価を行う予定である。

---

## 韓国の医療と介護、日本との比較

家族・地域支援学科 山路 憲夫

### （２）研究成果の報告

韓国で老人長期療養保険が2008年7月1日に始まって1年経った後の2009年7月8日から韓国のソウル市と釜山市を4日間にわたって訪れ、韓国老人長期療養保険1年目の成果と課題、さらに医療との連携、地域ケアの現実についても調査した。

今回の調査は筆者らが2009年5月に設立した「NPO 福祉フォーラム・ジャパン」の調査団として実施したもので、山崎泰彦・神奈川県立保健福祉大学教授、「NPO在宅ケアを支える診療所・市民全国ネットワーク」会長代行の新田國夫医師らとともに訪韓した。

1年目の総括と課題については老人長期療養

保険の創設に取り組んできた保健福祉家族部（日本の厚生労働省介護保険担当部局）バクジョンベ療養保険制度課長や国民健康保険公団（韓国唯一の医療保険，韓国老人長期療養保険の保険者）KANG 常務理事ら幹部にヒアリング，成果と課題について聞くことができた。

さらに，医療・介護のネットワークづくりや制度改革に取り組む NPO 健康世の中ネットワークとも懇談した。

介護，医療施設についてもソウル市のデミョン療養院（日本の特別養護老人ホームにあたる），デミョン医院も見学，釜山では金会長（韓国老人療養病院協議会会長，保健・医療・福祉複合体専門）や金教授（東西大学社会福祉学科，地域福祉及び福祉国家専門），ヤン教授（仁済大学作業治療学科，福祉用具専門），鄭教授（東州大学社会福祉学科，日本留学出身），チョ教授（新羅大学社会福祉学科，シルバー産業専門），金道勲（国民健康保険公団釜山支社部長）らと日韓の医療，介護に関する幅広い問題について，突っ込んだ議論をすることができた。

韓国老人長期療養保険スタート後 1 年での経験はさまざまな課題を浮き彫りにした。

08 年での調査でも感じさせられたことだが，在宅での基盤整備が人材（療養保護士など）養成を含めて，なかなか進まずかつての日本と同様に「施設中心主義」であること 保険者が日本の介護保険の場合，市町村なのに対して，韓国は医療保険型で国民健康保険という巨大な保険者に一本化されていること 自立支援という理念が掲げられておらず，ケアプランをコーディネートしチェックする仕組み，サービスの質を評価する第三者評価の仕組み，苦情処理システムが整備されていない 医療と介護の連携が不十分 施設でのケアも認知症やじょうく瘡の対応がきちんとできていない—といった問題が顕在化してきた。

介護保険スタート前に，日本でも深刻な問題として高齢者の「社会的入院」があったが，韓国も高齢者の社会的入院は老人長期療養保険が始まっ

た後も減らない。

日本の老人病院にあたる老人療養病院の連合体である韓国老人療養病院協会の金徳鎮・会長も「私の関わっている施設でも老人長期療養保険の対象となる入所者は寝たきりで，ひどいじょうく瘡があるなど，日本の介護保険での要介護度 5 にあたる重度の人たちがほとんどです。それをきちんとケアする体制と人材がなかなかいないのです」と率直に施設ケアの問題点を認めている。

日本と比べ，韓国老人長期療養保険の特徴の一つは「自立支援」を掲げておらず，ケアの目標が必ずしも明確ではない。ケアプラン作り，その見直しの中心となるべき人材，日本の場合はケア・マネジャーがその役割を果たしているが，韓国老人長期療養保険ではケアマネを置かなかった。本人の状態にあった計画的なケアプラン作りが不十分な点も明らかにあり，韓国の国民健康保険公団もその不十分さは認めた。

さらに医療との連携も不十分で，いったん施設に入れば，必要な医療もなかなか受けられない現実がある。

家族が介護した場合の「特別現金給付」を認めたのも，韓国老人長期療養保険の特徴である。

施設が不足している過疎地域で，家族介護者に「家族療養費」を支給する。本人が認知症の要介護者で，ヘルパーなどの在宅給付サービスではなく家族介護を希望した場合も支給される。

この点では，家族介護への現金給付を認めたドイツと同様である。日本の場合，家族介護への現金給付を認めるかどうか，介護保険スタート前に議論となったが，日本の場合，妻や嫁，娘といった女性が担ってきた家族介護からの解放，軽減ができず，介護保険が目指す「介護の社会化」に反することを理由に家族介護の現金給付は認めなかった経過がある。

韓国はスタートして間もないだけに，家族への現金給付を認めたことが，家族を介護に縛り付け，在宅ケアの整備を遅らせることにならない。逆に家族でないとケアしにくい現実に対応できるプラ

スの効果をもたらしたのか。その点はさらなる検証が必要であろう。

介護認定の等級は、日本の場合7ランクなのに対し、韓国はドイツと同様に対象者を中度以上に絞り込み、3ランクに止めたことである。介護給付費の抑制という面からはもちろん、それなりの効果はあるが、軽度の要支援、要介護高齢者、とくに高齢者だけの世帯や単独世帯にとって家事援助サービスを中心とした生活全体の援助は必要であろう。

生活援助サービスはどういう形で保障していくのか。韓国の場合高齢化率がまだ10%と日本よりはるかに低いだけに、現在のところ顕在化しているとは言い難いが、高齢化がさらに加速した段階

で、軽度の要介護者に対する支援の問題は必ずや深刻化してくるだろう。

日本と比較しつつ、その点でのフォローも続けていきたい。

(学会誌等への掲載)

「現地で見た韓国の介護事情——『韓国老人長期療養保険』スタート後1年の現状と課題」(「介護人材9月号」22p~26p)産労総合研究所9月号11月号

「日韓における介護保険制度の違い」(Run & Up 春号)12p~15p, メディカルビュー社, 2010年3月

## 「三層構造の歴史的意義と今後の可能性」

—— 附属白梅幼稚園の実践との関連から ——

短期大学保育科 花原 幹夫

本研究の目的は、久保田浩氏の三層構造論の歴史的意義と今後の可能性について、白梅学園大学附属白梅幼稚園（以下、附属白梅幼稚園と略記）の実践等と関連づけながら、検討をしていくことである。本研究は、「保育構造研究会」に所属する教員によって構成されている。構成教員は、金田利子、高田文子、瀧口優、佐々加代子、鈴木慎一郎、花原幹夫、川喜田昌代である。この研究会は、保育の構造について広く学びたいという意識の基に、2006年4月25日に発足した組織である。これまでに、文献購読、講師を招聘しての勉強会等を通して、研究の基礎を築いてきた（「研究年報」12, 2007年・13, 2008年, 2009年・No 14に掲載）。

2009年度の研究申請申請書では、以下の4点の研究課題を挙げた。 附属幼稚園の保育実践の検討。 三層構造における歴史的意義。 三層

構造における今日的な課題。 国際的視野からみた三層構造。これら4点の課題すべてを解決することはできなかったが、2009年度に重点的に取り組むことができた課題は、昨年度に続いて上記のとについてである。具体的には、2009年度は、計10回の研究会を開催して課題の検討を行っていった。以下に回数と検討概要を記す。

第1回（4月7日）…附属白梅幼稚園が発行した「白梅の保育 No. 4」（実践と考察）を相互に読み合わせ、附属幼稚園における保育実践の検討分析等を行った。第2回（6月9日）…前回の続きと、「保育の構造について 三層構造にふれて」について、講師を招聘して勉強会（講演会）を実施することについての検討を行う。第3回（9月1日）…前回の続きの検討の一環として、講師として加藤繁美氏（山梨大学）を招聘することに決定し、勉強会（講演会）の内容を検討する。